

おおいた国際交流プラザ

OITA INTERNATIONAL PLAZA

vol. **31**

2011

ラ・エスタシオン  
スペイン語で、局や  
駅の意。当誌が県内  
の国際交流・協力情  
報の発信地として、  
広く親しんでいただ  
けるようお願いを込め  
てつけました。

# La Estación



寄稿 国際交流は何のためにするのか

第1回「国際交流の理論的分析 - その意義と目的を考える」.....1-2

国際的に活躍している人々の紹介.....3

「新たな生活」 齋 保強氏

団体の紹介「宮城県国際交流協会からのメッセージ」.....4

JICAデスク大分からのお知らせ「ケニア体験記」.....4

Event Calendar.....5-6

私たちの声を聞いてください!!.....7

崔 文玉氏

Information.....7

(財)大分県文化スポーツ振興財団

「ドレスデン、ドイツ」  
写真家:yuko k.



## 第1回

# 「国際交流の理論的分析 - その意義と目的を考える」

昨年度は、国際交流協会職員の須磨珠樹氏（(財) かながわ国際交流財団多文化共生・協働推進課）、須藤伸子氏（(財) 仙台国際交流協会 企画事業課企画係長）、原由理恵氏（射水市民国際交流協会）に各協会における多文化共生施策についてご紹介いただきました。今年度は「国際交流は何のために行うか」と題して、様々な視点から国際交流の意義と目的について解説していただきます。寄稿者は、国際関係論、日本学や歴史学等、色々な分野の専門家と協力する予定です。今回は、大分県立芸術文化短期大学 国際文化学科 准教授玉井昇さんの寄稿です。

### ▶ はじめに 国際交流は必要だと思いますか？

このような問いに対して、「国際交流は不要だと思う」と答える人は、今日ほとんどいないことでしょう。グローバル化が進み、どのような場面でも必然的に海外とのつながりを意識しなければならない現在、「なんとなく」とか「漠然と」であったとしても、多くの人が「国際交流は必要なこと」と認識しているようです。

インターネットで「国際交流」を検索してみると、400万を超えるサイトがヒットします。その内容は、政府、地方自治体や学校など公的機関によるものから、企業、NPOあるいは小規模のサークル的な民間のものまで、大小さまざまな次元での国際交流があります。それらは、特定の地域のみに限定されたものではなく、北海道から沖縄まで広く全国的に見られます。また、幼児や小学生が主体となっているものから、年配の方々も参加するものまで、あらゆる年代の人々による国際交流が行われています。

つまり、国際交流は今日広く認知されており、盛んになりつつあるのですが、この場を借りて改めて「国際交流は何のために行うのか」について整理してみたいと思います。

### ▶ 国際交流の定義 国際交流とは何ですか？

国際交流を単純明快に定義することはとても難しいのですが、そもそも「交流」の意味を辞書で調べてみれば、「違った系統のものがお互いに入り混じること」となっています。そこから、「国際交流」のもつ広い意味は、「異なる国家に属するものがお互いに入り混じる」こととなります。つまり、この場合、ヒト・モノ・カネ・情報の国境を越える移動とその結果のほとんどが、国際交流に含まれることとなります。そのため、貿易を通して行われるモノの交換や多国籍企業の活動、技術支援や協力、政治家どうしの意見交換なども広い意味で国際交流に含まれます。

しかし、インターネットのサイトを見ても、目に付くのはそのようなものばかりではありません。むしろ、それ以外のジャンルに属するものの方が多く感じられますし、とくに文化的な交流が目を引きます。例えば、伝統芸能を他国で紹介するような小規模のものから、万博のような大規模なものまで様々な文化的交流が行われています。また、留学のような教育の交流、あるいはスポーツの交流などもますます盛んになってきています。

したがって、現在では一般的に国際交流といった場合、非政治的、非経済的な狭い意味での交流を想定することが多いようです。つまり、国際交流のメインは、「文化、教育、スポーツなどを通して行われるヒトとヒトの交流」だと言えます。

### ▶ 国際交流の意義と目的 国際交流は何のために行うのでしょうか？

では、なぜ文化、教育、スポーツなどをメインとして国際交流が行われるのでしょうか。あるいは、なぜそのような国際交流を行う必要があるのでしょうか。今回の主題でもあるこのテーマについて、ここでは文化、教育やスポーツの交流を主たる役割として活動している国際組織であるユネスコ

(UNESCO)に注目してみます。

ユネスコは、正式名称「国連教育科学文化機関」であり、その名の通り国際連合の専門機関として、国際社会における文化、教育などの交流を活発にすることをその活動目的としています。また、その組織名には直接出てきませんが、サッカーや野球をはじめ、スポーツの交流にも意欲的に取り組んでいます。

その活動目的は、「国際の平和と安定」を主たる任務とする国連の関係機関であることから明らかです。つまり、文化、教育、スポーツなどの交流を通して世界平和の実現に貢献することなのです。

この点について、ユネスコの精神が述べられているユネスコ憲章の前文を見てみましょう。それは、有名な次の書き出しで始まります。

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」  
まず、ここで言う「戦争は人の心の中で生まれる」という点について、ユネスコ憲章は、要約すれば次のように言っています。つまり、人類の歴史をみると、お互いに相手の文化を知らないことが偏見につながり、そういう人々の間に「疑惑と不信」を生み出し、それが戦争を発生させる一因となってきた、というわけです。

そして、「人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」という部分については、以下のように解釈できます。つまり、安全保障条約など政府間レベルで定められた「取り決めのみに基づく平和」は、持続し、誠実な支持を得られる平和ではない。よって、平和が失われないようにするためには、「人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない」というわけです。

この「平和のとりで」となりうる「知的及び精神的連帯」をつくるためには、お互いに相手の文化に関心を持ち、知ろうとする精神が肝要になってきます。そのために、文化、教育、スポーツなどを通して文化的背景の異なる人々の間で交流を進める必要がある、という結論に達するわけです。つまり、少々大げさに言えば、国際交流は、国際的なレベルであろうと、国家あるいは県や市町村のレベルであろうと、それぞれの「社会(=人々の集まり)の平和と安定のため」に行うということになるでしょう。

ですから、行政だけでなく民間も含め、特定の地域に限らず全国的に、かつ年齢を問わず、今日これだけ積極的に、あるいは活発に行われている(もしくは、行わなければならない)と捉えることができるのではないのでしょうか。

## ▶ 国際交流の展望 今後の国際交流について

このような文脈からすれば、国家レベルはともかくとして、国内の特定地域のレベルでは、外国籍住民が集住するような「文化的背景の異なる人々の混在化」という状況が顕著にならない限り、とくに必要ないと言えるかもしれません。また、現在、景気や雇用対策、医療や年金、少子高齢化など対策が急務な課題が山積みで、国際交流どころではないという声もあるかもしれません。

しかし、グローバル化がますます進展する現在、ここ大分でも例外なく、都市部には、ビジネスや留学をはじめ、多様な目的で多くの外国籍住民が生活するようになってきました。一方、30年前には外国人をほとんど目にする事のなかったような地方でも、一次産業や医療介護などの従事者として外国籍の労働者をあてにするような現実が少なからず生じてきているのも事実です。

個別的、具体的な問題に対する国際交流の事例については、それぞれの専門の方々に解説していただきたいのですが、総論として、自分の属する社会の安定と継続発展のためにも国際交流は必要であり、いかなる状況下でも持続的に取り組んでいかなければならないものと言えるでしょう。



### Profile

大分県立芸術文化短期大学 国際文化学科 准教授 玉井 昇

2002年日本大学から博士号(国際関係)修得

2003年 2008年の6年間に横浜市立大学、日本大学、大東文化大学ほかで非常勤講師を兼務(国際関係論および英語等を担当)。

2003年 2006年青年海外協力隊派遣前任国事情講座講師(フィジー諸島ほか任国一般事情担当)

2008年4月大分県立芸術文化短期大学国際文化学科に着任、2011年4月より准教授として現在に至る(国際関係論および英語等を担当)。

# 人物の紹介

～ 国際的に活躍している人々の紹介～

## 新たな生活

魏 保強 (ギホウキョウ)

幼い頃、体が弱くて、病気がちでした。強くなりたいと思い、少林武術を始めました。現在まで約30年間続けており、少林武術によって心身鍛錬ができ、自分の人生にも非常に役に立ちました。始めは健康維持のため、次は試合に参加するため、最後はコーチや監督、及び学校の先生になりたいという思いを抱きながら、努力してきました。北京体育大学を出てから、地元の武術協会のコーチ、スポーツ専門学校のコーチ、警察学校の教官などを務めてきました。もう一度人生を見直したい、新たな目標を目指したいと思い、日本に留学することを決めました。

大学卒業後8年間中国で働いていましたが、向上心がなくなり、日々の成長が感じられませんでした。そこで日本への留学を決意し2004年来日してから、今年の3月でちょうど7年になります。この7年間の人生は、母国の17年間分の収穫があったと感じています。来日したての頃、日本語があまり上手ではなかったので、3ヶ月間アパートや学校で一生懸命日本語を勉強しました。それから、地域のまつりや学校と地域連携のイベントなどに参加して、日本の文化にたくさん触れ、充

実した留学生活を送りました。

大分は自然も豊かで人も親切で、とても好きになりました。2009年大分大学経済学研究科博士前期を修了し、この地域に文化スポーツの推進や地元の人々の健康促進に貢献していこうと思いい、少林拳クラブと太極拳教室、中国語教室を開きました。最初は3教室で30人未満からスタートし、わずか1年半の間で教室数は10倍に増え、会員数も300人近くに増えました。去年11月、第1回目の全教室の生徒の交流会を行い、約100人が集いました。その交流会が無事に開催できたのも、自分の努力が報われたのだと感動し、日本に来て一番幸せだと感じた瞬間でもありました。これからも日本の文化を深く理解し、中国と日本の文化交流の機会をたくさん作り、頑張り続けていきたいです。

3年前の調査データによると、太極拳愛好者は100万人にも上りました。太極拳は健康維持に最適で、高齢化社会の日本では非常に関心が高いスポーツでもあります。スポーツは心身鍛練という目的がありますが、本当に人間の体によいものは太極拳です。太極拳は普通のスポーツに比べて、ただ健康維持・健康促進の目的だけではなく、実に奥深いのです。有形の姿と無形の文化とともに、この伝統スポーツは継承されてきて、なにより太極拳の中で最も素晴らしいものは「気」です。この気は普通の肺呼吸ではなく、単純な内臓の動きと複合的な内部循環、全身運動を基礎にして、肺呼吸、心臓呼



吸、神経循環、リンパ循環、そして経絡という道を通して、宇宙と自然、地球のエネルギーを取り込んで、意識あるいはイメージを合わせて、「天地人3位1体」となり、自然に回帰していくのです。太極拳では疲労やストレスの解消、病気や体調不良の改善、そしてなにより太極拳の楽しさを満喫することができる、運動が苦手な人にも始めやすいスポーツです。

私の夢は国際人として、全大分、全九州、全日本で健康な地域づくりをすることです。健康づくりという目的で太極拳を始めた方は、まず体力づくりをし、次に意識と呼吸を合わせて運動器官と内臓の動きを改善し、内から外まで健康になることが大切です。健康的な人生を維持する生涯スポーツである太極拳、ぜひ皆様にお勧めしたいです。



### 少林拳と太極拳混元気功教室の情報について

#### 明治明野少林拳カンフークラブ

日時：毎週金曜日 18:00～20:00  
会場：明治明野公民館集会所

#### 鶴崎陳式太極拳気功教室

日時：第1、3週土曜日 10:00～12:00  
会場：大分市鶴崎公民館集会所

#### 明治明野混元気功太極拳教室

日時：第1、3週火曜日 12:30～14:30  
会場：大分市明治明野公民館和室

#### 大在混元気功太極拳教室

日時：第2、4週金曜日 13:00～14:30  
会場：大分市大在公民館和室

お問合せ：他の場所でも教室をしていますのでご連絡してみてください

TEL：090-2096-2008

Email：wushu1682005@yahoo.co.jp



今日で東日本大震災発生からちょうど一カ月を迎えます。発生直後は当協会事務所もスチールキャビネットがごとごとく転倒し、原型を留めないようなめちゃくちゃな状態でしたが、お陰さまで職員、そして相談や研修受講のため来所されていた外部からの30数名のほどの皆様は全員無事に退避していただくことができました。

ただ、研修会に参加されていた方の中には、今回津波で大きな被害を蒙った地域からの外国人も数名おり、その後の安否にたいへんな時間を要し、心配いたしました。

南三陸町から参加していた台湾出身の方は、御家族に会うまでに4日かかったと聞き、この災害の大きさを改めて知らされたものです。

当初の一週間は事務所の原状復帰と、外国人からの問合せ（主に大使館からの迎いのバスに関する事、国外退避の方法、送り出し国からの沿岸部の研修生の安否確認など）メディアからの忙殺されました。

仙台市内は沿岸地域を除き留学生の集住地域がある中心部はライフラインは止まりましたが建物の倒壊などもほとんどなく「地震」による被害は信じられないほど少なかったです。

ただし、原発からの放射能汚染に関する情報がいち早く伝わったことから、各国大使館のヘルプもあり、あっという間に県外に退避されました。

公用車を持たず、またガソリン不足に陥ってしまったこともあり、被災地である沿岸各市町のことが気になりつつも身動きが取れなかった私たちに、いち早く「足」を提供して下さったのが東京から入った難民支援協会さんでした。

といっても、すでにその時は20日になっていました。その日、石巻(市役所と避難所)、松島(市役所)、東松島を

廻り、被災地を廻らなければ情報が全く入らないことを痛感し、22日の役員定例会議でレンタカーの借上げを決定し、また緊急車両としての登録も済ませ、その日のうちから毎日被災地巡回に出ました。

15日間で津波被害の甚大だった沿岸部の気仙沼、南三陸、東松島、石巻、多賀城、塩竈、女川、七ヶ浜、名取、山元、岩沼、亘理、松島、そして内陸部では白石、丸森、栗原、登米、大崎、仙台を地域のキーパーソンの皆様同道していただきながら巡り、避難所の外国人の方々からのヒアリング、多言語相談対応携帯電話一覧表の掲示、役場、災害対策本部での情報収集、提供を行って参りました。

沿岸部の水産加工工場にいた多くの中国人、インドネシア人の研修生や技能実習生たちについても、いち早く大使館からの送迎バス、或いは受け入れ機関の努力で新潟から帰国の途に就かれたとのことでした。残っている研修生たちもありますが、私たちがヒアリングした範囲では、自分の意思で残留しているとのことでした。

深刻なのは、自宅も配偶者も津波で失った海外出身の妻たちです。今、地域の日本語講座の担当の方と役場と当協会で、被災に関する支援に漏れないようサポート体制を構築しているところです。

私たちが把握している外国人犠牲者は現在20名に満たない数ですが、御遺体の身元確認がどんどん難しくなっていることもあります。今後、もっと増えるのではないかと推測しています。

10時から県関連機関全てで黙祷の時間となります。

皆様も多くの犠牲者の方々のためにお祈りいただければ幸いです。

JICA デスク大分からのお知らせ

今回の『JICAデスク大分からのお知らせ』では、1992年から1994年までケニアで青年海外協力隊員として活動されたギトンガ佳子さんの「ケニアでの体験談と料理紹介」をお届けします。JICAでは、5月2日～6月13日の期間で青年海外協力隊・シニア海外ボランティアの春募集を実施しています。



朝食、授乳食に、砂糖やレモン汁を加えて飲むウジ

長期休暇に生徒の家を訪問した時の出来事です。

生徒に日時を伝え、バス停まで迎えに来てもらう約束をしました。バス停に着いたのですが、生徒の姿はなく1時間待ちました。気が付くと、私の周りに2重の人の輪ができていました。

私のすぐ近くには子供の輪、その外には大人の輪が。現地の公用語スワヒリ語で生徒の事を知らないかと尋ねると、「知っているから、連れて行ってあげる」と言うのです。10人ぐらいの子供達と歩く事2時間、やっと生徒の家に着きました。

生徒に「どうして迎えに来なかったの」と聞くと、「この村

には、外国人が来た事が無いから、本当に来るとは思わなかった」と言うのです。生徒のご両親の大歓迎を受け、私の為に1頭のやぎがBBQとしてふるまわれました。そのやぎは朝食のポンスープにも使われていました。

帰り際、ケニアでは肉の中で一番単価の高い鶏1羽か、子牛1頭をお土産に選んでほしいと言うのです。「子牛が大きくなったら、また食べに来る」と言って、約束しました。

しかし、卒業した生徒の家には電話が無く、また行けませんでした。

ケニアには、白いとうもろこしの粉を熱湯で練った主食のウガリ、ケールをトマトで煮こんだスクマウィキ、雑穀の粉を水から煮込んだおかゆ状のウジ等が、好く食べられています。あなたもぜひ、調理会で試食してみませんか？



国際協力推進員の川崎(かわさき)までいつでもどうぞ  
〒870-0029 大分市高砂町2-33 iichiko 総合文化センター地下1階 国際交流プラザ内  
TEL : 097-533-4021 FAX : 097-533-4052 E-mail : jicadpd-desk-oitaken@jica.go.jp





## プラザのカウンセリング・各相談室のご案内

### カウンセリング

場所：iichiko 総合文化センター B1F おおいた国際交流プラザ  
お問合せ先：TEL：097-533-4021 FAX：097-533-4052  
E-mail: in@emo.or.jp

### 中国語無料相談

毎週火曜日と木曜日  
時間：火曜日：13:00～16:00  
木曜日：10:00～13:00  
会場：国際交流プラザ  
申し込み：不要  
相談員：崔 文玉（ツイ・ウェンユウ）  
相談料：無料  
県内在住中国語圏の方のための相談室です。

### タガログ語無料相談

毎月第1土曜日と第3火曜日  
時間：13:00～16:00 会場：国際交流プラザ  
申し込み：不要 相談料：無料  
相談員：吉武ロドラ（大分県フィリピン友好協会 会長）  
悩み事を抱えている方、タガログ語で気兼ねなく話をしたい方はプラザにお越しください。

### 入国・在留国際手続無料相談

毎月第1日曜日  
主催：ライフサポート大分  
時間：13:00～16:00  
会場：国際交流プラザ  
相談料：無料 予約：必要  
対応言語：日本語・英語  
主として法律相談ですが、それ以外の内容でもお困りの場合はご来館ください。また、相談内容が外にもれることはありません。お知り合いの外国籍の方がトラブルや悩みを抱えている場合には、その方にぜひお伝えください。外国の方とのかかわりの中でお悩みの方の相談も受け付けます。

### 在住外国人のための無料相談室

毎月第3水曜日  
時間：13:00～16:00 会場：国際交流プラザ  
申し込み：不要  
ただし、日本語、英語以外による相談は、通訳手配のため、2日前までに要予約。  
相談員：伊藤精（行政書士）  
相談料：無料  
県内在住外国人のための相談室です。

## JUN

### 4日（土）タガログ語無料相談

時間：13:00～16:00 会場：国際交流プラザ

### 5日（日）入国・在留国籍手続無料相談（毎月第1日曜日）

時間：13:00～16:00 会場：国際交流プラザ  
主催：ライフサポート大分

### 11日（土）国際理解講座～特別編

「在住フィリピン人介護福祉士の受け入れを理解しよう！」

内容：経済連携協定（EPA）による海外からの看護師と介護福祉士の受け入れは日本の少子高齢化の課題に携わり、国際関係の一環としてもEPAは非常に大切な役割を果たすため、今回の講座はEPAで来日している在住フィリピン人の介護福祉士を招いて、受け入れ制度とフィリピン人に対して理解を深める。

時間：14:00～16:00  
場所：iichiko総合文化センター B1F【映像小ホール】  
予約：不要 受講料：無料  
TEL：097-533-4021 E-mail：in@emo.or.jp

### 15日（水）在住外国人のための無料相談（毎月第3水曜日）

時間：13:00～16:00 会場：国際交流プラザ

### 18日（土）日本語deトーク

内容：国際交流プラザでは日本人と外国人の相互理解を目的に、毎月土曜日に日本語deトークを開催します。この日本語deトークでは、日本人と外国人が各国の文化の違いなど、毎回異なるテーマに沿って日本語で話し合いをし、気軽に交流をします。日本人、外国人のことを知ってもらいたい方、理解したいという方、もちろん、「何かかおもしろそう!」という好奇心旺盛な方も大歓迎です。興味があるテーマに気軽に参加してみませんか? 同日の外国文化理解講座の前に開催します。

テーマ：「故郷」  
時間：13:00～14:30  
場所：iichiko総合文化センター B1F【国際交流プラザ】  
定員：10名（先着順） 予約必要 参加費：無料  
TEL：097-533-4021 E-mail：soenke@emo.or.jp

### 21日（火）タガログ語無料相談

時間：13:00～16:00 会場：国際交流プラザ

### 25日（土）外国文化理解講座 ～フランスの風習とマナー～

内容：予約不要・受講料無料で、どなたでも気軽に外国の文化を学べる外国文化理解講座。今年度は、中国、韓国、フランスの講座を開催します。大分にいながらにして、それぞれの国の文化に触れてみませんか? 各テーマに関連したワンフレーズレッスンなどもあり、外国の文化と言語を学びながら、一緒に国際交流をしましょう

テーマ：フランスのテーブルマナーや礼儀作法など  
時間：14:30～16:00  
場所：iichiko総合文化センター B1F【映像小ホール】  
予約：不要 受講料：無料  
TEL：097-533-4021 E-mail：in@emo.or.jp

### 26日（日）「韓国歌謡コンテスト2011」（応募締切） 目指せ! K-POP 日本一! 挑戦者大募集

日本全国6地域（北海道：帯広市、東北：秋田市、関東：東京都、中部：名古屋市、関西：大阪市、九州：北九州市）で本選進出者を決める地方予選（2次予選大会、1次予選は音源審査）を開催いたします。

応募資格  
韓国語を母語としない日本居住の方（国籍・年齢不問）  
九州地域予選大会  
応募締切：6月26日 合格者発表：7月1日  
7月23日（土）15時～ 北九州芸術劇場中劇場（北九州市）

関西・九州地域予選大会

駐大阪韓国総領事館 韓国文化院 「韓国歌謡コンテスト2011」担当者  
〒530-0016 大阪市北区中崎2-4-2 (大阪韓国会館4階)  
TEL:06-6292-8760 E-mail:bunkain@tiara.ocn.ne.jp  
詳しい内容は: <http://www.koreanculture.jp/>



### 30日(木) ベルリンフィル八重奏団

ベルリン・フィル主要メンバーから構成される超絶の室内楽団が5年ぶりの来  
県。今回は人気ピアニスト仲道郁代が参加し華を添えます。

開 場: 18:30 開演: 19:00

【曲目】 R. シュトラウス/F. ハーゼンエール編: もう1人のティル・オイレ  
ンシュピーゲル  
シューマン: ピアノ五重奏曲 (ピアノ: 仲道郁代)  
シューベルト: 八重奏曲

## JUL



### 2日(土) タガログ語無料相談

時 間: 13:00 ~ 16:00 会場: 国際交流プラザ



### 3日(日) 入国・在留国籍手続無料相談 (毎月第1日曜日)

時 間: 13:00 ~ 16:00 会場: 国際交流プラザ

主 催: ライフサポート大分



### 19日(火) タガログ語無料相談

時 間: 13:00 ~ 16:00 会場: 国際交流プラザ



### 20日(水) 在住外国人のための無料相談 (毎月第3水曜日)

時 間: 13:00 ~ 16:00 会場: 国際交流プラザ



### 23日(土)・24日(日) 歌舞伎レクチャー

歌舞伎を愛してやまない葛西聖司アナウンサーを講師にお迎えして、九月の松  
竹大歌舞伎を愉しむための講座を開催します。江戸時代から愛され、世界からも  
賞賛される歌舞伎を満喫するコツを伝授します。

大会会場: NHK大分放送局キャンパス (iichiko総合文化センター2階)

日 時: 23日(土) 14:00 ~ 16:00

湯布会場: 湯布院美術館(湯布院町川上岩室2995 TEL: 0977-85-3525)

日 時: 24日(日) 13:30 ~ 15:30

料 金: 一般 500円 学生 無料 (25歳以下、学生証必要)

チケット販売所: iichiko総合文化センター 1階インフォメーション

お問合せ先: iichiko総合文化センター TEL: 097-533-4004



### 31日(日) 国際理解講座~特別編~ アジア3カ国の伝統文化

内 容: 広く県民の国際感覚を涵養し、国際交流・国際協力・多文化共生の果  
たす役割等について学ぶことを目的とした「国際理解講座~特別編  
~」。今回は、3カ国のAPU留学生を招いて、パフォーマンスとプレゼ  
ンテーションを通じて、各国の伝統文化について紹介してもらいます。

時 間: 14:00 ~ 16:00

場 所: iichiko総合文化センター B1F【映像小ホール】

予 約: 不要 受講料: 無料

以上の内容や開催日時、会場などは変更する可能性があるため、  
[www.oitaplaza.jp](http://www.oitaplaza.jp)をチェックするか、電話でお問合せ下さい。

TEL: 097-533-4021 E-mail: in@emo.or.jp



### 31日(日) 感謝を伝えたい音楽会

内 容: カアパイという大分フィリピン人の会 (KOFA) は、このたび音楽とダ  
ンスのチャリティーショーを開催します。

ショーの目的は、KOFAの援助活動計画のための資金集めだけでなく、  
さらに大切に思うことは、KOFAの会員たちが住んでいる地域の皆様に、  
何かをお返しをさせていただきたいということです。

時 間: 18:30 ~ 21:00

場 所: コンバルホール 1階【文化ホール】

入場料: 1,000円

TEL: 097-533-4021 E-mail: in@emo.or.jp

## 異文化教室

### 大分カルチャー学院

住所: 別府市楠町4-18 マルシヨク流川店 3F

申込: TEL 0977-80-6288

<http://oita-culture.com/index.html>

### 英会話カフェ

講師: 外国人講師

内容: 多国籍の外国人講師とカフェでコーヒーやハー  
ブティーをたのしみながら、英会話をたのしみ  
ませんか?

レッスン: 第1・3(水) 13:30 ~ 14:45

第2・4(日) 10:30 ~ 11:45

第1・3(水) 18:30 ~ 19:45

受講料: 1ヶ月 3,150円

### イタリア語講座

内容: 旅行で、イタリア語で会話しながらお買い物  
をしたい方。分かりやすく楽しくレッスンします。

講師/佐藤 孝成

レッスン: 第1・3(火) 14:30 ~ 15:30

受講料: 3,150円

### シニアのためのかんたん英会話

講師: 外国人講師

初心者の方も楽しい外国人講師とハローからはじめて  
みましょう。英語で日記を書く練習もしてみませんか?

レッスン: 第1・2・3・4(水) 9:45 ~ 10:45

受講料: 6,300円

初回時 教材費として、4,000円必要です。

### イタリア料理

手軽に出来るイタリア家庭料理、デザートと一緒に作っ  
てみませんか?

講師: 佐藤 孝成

日時: 第1(火) 10:00 ~ 13:30

受講料: 3,150円 実費

### アンナちゃんとエイミー先生との幼児英語タイム

内容: 0歳から2歳の幼児はお母さんと英語の歌を楽  
しむクラスです。お菓子と遊びの時間も設けま  
す! 子供たちが英語の環境と一緒に遊んだり、  
歌ったりしながら、お母さん達はエイミー先生と  
英語でお喋りを楽しむことができます!

日時: 毎週月曜日 10:00 ~ 12:00

場所: 花園公民館(15-1 花園)

参加費: 1,000円

申し込み: babyenglishtime@gmail.com





わたしたちの声を聞いてください!

## 「酒の場から見る日本人と中国人」

崔 文玉

日本人に「酒」と聞いたら、もちろん日本酒でしょう。そしていちご焼酎のCMの歌「また君に恋してる」は頭から離れませんよね。日本人はよく料理の種類(特に刺身、焼き魚、煮付けなど)に合わせて甘口の日本酒か辛口の日本酒かを選んでいるようですが、中国ではまずいお酒でも料理がおいしいければお酒もおいしく感じる。まさに『酒不酔人、人自酔』酒は人を酔わせず、人は自(おの)ずから酔うという感じです。

中国の酒の場では「乾杯」と言ったら、文字通り一気に飲み干します。目と目を合わせながら、全員と同じ量を飲み干すのが中国流の飲み方です。しかし、日本の酒の場では最初のあいさつで「乾杯」とするだけで、その後は皆好きな量を飲んでいきます。よく日本の方は中国の宴会で記憶がなくなるまで飲まされると聞きます。中国の飲み方に日本人は苦戦するようです(笑)

中国の酒の場では、あらゆる口実を使って飲まされるのですが、いくら飲んでも飲まされても、酔いつぶれてはいけないうのが鉄則です! 中国の酒の場は、ある意味「戦場」です。飲まされても最後までピシッとくずれない、酔いつぶれずに飲み続ける人はカッコいいと思われ、仕事が出来るとも判断されます。社会的にも信頼を寄せられるのです。逆に日本人は普段礼儀正しいのですが、いざ酒の場に入ると、酒につられて段々羽目を外して歌ったり踊ったりして騒ぎ出し、倒れるまで飲んでしまうようです。中国とは逆に、酔わないと腹を割って話してくれないとか、付き合いが悪いなどと評価が下がるようです。ちょっと醜態をさらした人間の方がなんとなく信頼できると思われるようです。だから中国人からみる日本人は普通の生活や仕事のストレスが相当溜まっていると思われる飲み方のため、誤解が生じるようです。

酒の場を通して、日中の文化、習慣の違いを生身で感じますが、人と人の心を通わせる場というのは共通です。「また君を好きになれる～心から」のお酒を一杯飲みませんか?



# INFORMATION

おおいた国際交流プラザを

twitterで

フォローして下さい!

今後は、おおいた国際交流プラザの情報をTwitter(ツイッター)でも受信ができるようになりました。新しい情報提供手段として「ツイート」(つぶやき、短文)による情報提供を開始しました。

Twitterでは、おおいた国際交流プラザのイベント情報等をツイートで知らせますので、ぜひフォローして下さい。

Twitterへの登録・使用はとても簡単です。ユーザー名とパスワード、名前、メールアドレスを登録するだけで使える無料のサービスです。

おおいた国際交流プラザのユーザー名は下記の通りです。

「oitaplaza」



Twitterについての詳細はこちらをご覧ください。

<http://twitter.com>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/Twitter>

なお、プラザの最新のニュースについてはこちらを:<http://www.oitaplaza.jp>

## 編集後記

この「Vol. 31」は今年度の最初の号なので、新鮮な出発点としてやっていきたいと思えます。形だけではなく、本格的で効果のある国際交流をしたいです。なので、今月の号で、リレー寄稿は新しいテーマになりました。今年度は、「国際交流は何のために行くか」をテ

マにした記事を書いて、国際交流の意義と目的について、皆様と共に考えて、再確認したいと思えます。ぜひお読み下さい。

今年度は、外国文化理解講座のような、新しい事業が色々ありますので、ご参加を待っています。また、Twitterの使用開始等、便利でタイムリーな情報提供手法を通して皆様にイベント情報等を

お知らせしますので、フォローして下さい。

表紙写真の募集は常時行っていますので、海外で撮った、自慢の写真があれば、La Estaciónの表紙として使わせていただければ幸いです。

では、今年度もどうぞよろしくお願いたします。

グリユツマハー・ゼンケ



おおいた国際交流プラザ

## La Estación 2011 Vol. 31

発行日 平成23年5月29日(奇数月末発行予定)  
編集・発行 大分県文化スポーツ振興財団  
国際交流課

〒870-0029 大分市高砂町2番33号 スペースビー

iichiko総合文化センター地下1階 iichiko Space Be

開館時間: 9:30 - 19:00

閉館日: 日曜日・祝日及び第2・4月曜日とその週

の土曜日 ただし閉館日が祝祭日の場合はその翌日

TEL: 097-533-4021 FAX: 097-533-4052

E-mail: in@emo.or.jp

URL: <http://www.oitaplaza.jp/>